

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会(東京) アピール

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、今年で第33回となりました。女性委員会を立ち上げられました初代の女性委員長はじめ歴代女性委員長、連合会会長および女性委員会担当副会長、各都道府県建築士会会長や女性委員会(部会)、そして事務局など多くの方々のご協力とご理解の下に継続出来たと深く御礼申し上げます。

今年は、新年早々1月1日に令和6年能登半島地震が発生し、最大震度7という大きな地震による甚大な被害となりました。また、半島という地形から、道路やインフラの復旧にも時間がかかり、思うように復興が進んでいません。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早く日常が戻ることをお祈りいたします。

同協議会では、平成23年の東日本大震災以降、全国各地で発生しました災害状況や復興支援活動について毎回ご報告をいただいています。今年は、令和6年能登半島地震について石川県、富山県、福井県、新潟県より報告をしていただきました。これからも災害報告を継続して情報を共有し、建築士としてどのような活動が必要か、共に模索してまいりたいと考えます。

さて今回のメインテーマを未来へつなぐ「まち・ひと・建築」とし、～インクルーシブな社会を目指して～をサブテーマにいたしました。私たち建築士は、高齢化や多様化する現代において、誰もが安心して使える快適な建築について学び、これからの社会づくりにつなげていきたいと思えます。

一日目の全体会では、基調講演を2部構成といたしました。第1部では、TOTO株式会社 真島香氏より「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」をテーマにご講演いただいた後、第2部では、株式会社日建設計 畑島楓氏より「インクルーシブな社会を目指してトイレから誰もが使いやすい建築を考える」をテーマにご講演いただきました。また、活動報告では、岡山県建築士会渡辺睦氏より、「繋がりをもつこと～災害後6年目の現在地～」について報告をしていただきました。

二日目の分科会では、来年は山形県開催！「魅力ある和の空間ガイドブック」part6、インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」、「民家の土塀修復・保存の取り組み」、「変えていく！建築士会」～バージョンアップへの道～、すまい学習をサポートします あれから～続～兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～、女性部会情報誌「フフ」の発行経緯と女性部会の今後について、未来につなぐ環境建築への取り組み～地方の建築技術者が出来ること～の7つのテーマのもとに報告並びに意見交換をいたしました。

それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、また、生活者としての視点から建築を見直し、全ての人にやさしいまちづくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として、だれにでも使いやすい建築とは何かを学び、快適な空間づくりに取り組んでまいります。
3. 私たちは、災害報告等を通し、建築士として、被災者に寄り添う心を忘れずに、災害発生時にできることや復興支援のあり方を模索し、継続した支援活動に取り組んでまいります。
4. 私たちは、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、安心安全な社会の実現のために日々研鑽してまいります。